



2020年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年11月14日

上場会社名 リファインバース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6531 URL https://www.r-inverse.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 越智 晶
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 北垣 栄一 TEL 03(5643)7890
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年6月期第1四半期の連結業績（2019年7月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年6月期第1四半期	675	5.8	△70	—	△80	—	△81	—
2019年6月期第1四半期	638	17.2	△72	—	△80	—	△65	—

(注) 包括利益 2020年6月期第1四半期 △81百万円 (—%) 2019年6月期第1四半期 △65百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年6月期第1四半期	△26.59	—
2019年6月期第1四半期	△21.84	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年6月期第1四半期	2,944	524	17.5	169.01
2019年6月期	3,113	604	19.2	195.62

(参考) 自己資本 2020年6月期第1四半期 515百万円 2019年6月期 596百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年6月期	—	—	—	—	—
2020年6月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年6月期の連結業績予想（2019年7月1日～2020年6月30日）

(%表示は、通期は対前期減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,633	42.6	306	—	276	—	226	—	74.92

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2 2020年6月期の連結業績予想の1株当たり当期純利益は、新株予約権の行使を含めた予定期中平均株式数により算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年6月期1Q	3,049,950株	2019年6月期	3,049,950株
② 期末自己株式数	2020年6月期1Q	129株	2019年6月期	100株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年6月期1Q	3,049,840株	2019年6月期1Q	3,004,850株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(セグメント情報)	7
(重要な後発事象)	8
(その他)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間において当社グループは、産業廃棄物処理事業において基盤となる事業を展開しつつ、今後の成長の核となる再生樹脂製造販売事業の事業領域の拡大に向けて、持続的な成長のための事業基盤の強化、推進に努めてまいりました。事業基盤の強化については、再生樹脂製造販売事業において、従来のカーペットタイルのリサイクルに止まらず、さらに多くの再生樹脂分野をカバーするため、2019年7月にナイロンリサイクル事業で日本製鋼工業組合とのナイロン製廃棄漁網リサイクル協業を開始し、2019年9月には人工透析用中空糸膜*1の製造工程から発生する工程端材を原料として、スーパーエンジニアリングプラスチック*2の一種であるポリサルフォン樹脂の再生材料を開発し、再生スーパーエンジニアリングプラスチック事業を開始しました。これら、ナイロン製廃棄漁網リサイクルやポリサルフォン樹脂リサイクルについては、高機能樹脂事業部として取りまとめることとしております。また、当社がこれまでに蓄積してきた廃棄物有効利用に関する様々な知見を活用し、近年大きな社会的課題となっている廃プラ/海洋プラ問題を解決するべく2019年8月に新たにソリューション事業を開始し、収益源の多様化を図ってまいりました。一方、人員の増強による人件費の増加とともに、一宮工場の立ち上げに想定より時間がかかったこと及びRIVICにおいて通常より多量の廃材処分を実施したこと等からコストが先行する状況となりました。

産業廃棄物処理事業においては、前期で収益悪化の要因であった廃プラ等の処理コスト急騰を価格転嫁することについて顧客理解を得る活動が一段落したこと、新基幹システム導入により現場から管理部門までの伝票処理等のデジタル化成功によるオペレーションの効率化、管理コストの削減などから収益力は回復しており、今後の効率的な事業拡大が可能と判断しております。

また、更なる事業領域の拡大に向けて積極的に研究開発投資を継続するとともに、グループ各事業の収益管理及びコーポレート機能強化を目的として、当第1四半期連結累計期間から産業廃棄物処理事業については産廃事業部、再生樹脂製造販売事業についてはCTR事業部及び高機能樹脂事業部に再編した事業部制を導入しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の経営成績は、売上高675,656千円(前年同期比5.8%増)、営業損失70,692千円(前年同期は営業損失72,509千円)、経常損失80,662千円(前年同期は経常損失80,874千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失81,103千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失65,616千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 再生樹脂製造販売事業

再生樹脂製造販売事業につきましては、ホテル・オフィス関連を中心としたリニューアル需要は底堅く、企業の持続可能な開発目標(SDGs)への取り組みの高まりなどから、弊社へのカーペットタイルの処理委託並びに再生樹脂原料の需要は引き続き底堅く推移しております。

また、中国の廃プラ輸入禁止措置等により国内の廃棄物処理コストが急騰し、安定的な廃棄物処理先確保が困難になりつつある状況を背景に、当社にも廃棄物の有効利用や処理コスト削減に関しての引合いが急増してきており、これらの課題を解決するために当社グループで蓄積されてきた知見を活用したソリューション事業を立ち上げております。

また、人工透析用中空糸膜の製造工程から発生する工程端材を原料として、スーパーエンジニアリングプラスチックの一種であるポリサルフォン樹脂の再生材料を開発し、再生スーパーエンジニアリングプラスチック事業を開始しております。

一方で第1四半期連結会計期間においては、人員の増強による人件費の増加とともに、一宮工場の立ち上げに想定より時間がかかったこと及びRIVICにおいて通常より多量の廃材処分を実施したこと等からコストが先行する状況となりました。

この結果、売上高は225,895千円(前年同期比13.3%増)となり、セグメント損失は97,373千円(前年同四半期はセグメント損失15,465千円)となりました。

② 産業廃棄物処理事業

産業廃棄物処理事業につきましては、カーペットタイルリサイクルに関連したオフィス系改修工事に伴う内装系廃棄物処理は順調に推移しております。また、マンション等のリフォーム・リノベーション案件においても、解体工事から収集運搬・中間処理まで一括受注できる体制と小回りを利かしたサービスにより多くの引き合いを頂き、業績に寄与しております。前期で収益悪化の要因であった廃プラ等の処理コスト急騰を価格転嫁することについて顧客理解を得る活動が一段落したこと、新基幹システム導入により現場から管理部門までの伝票処理等のデジタル化成功によるオペレーションの効率化、管理コストの削減などから収益力は回復しております。この結果、売上高は454,339千円(前年同期比2.3%増)となり、セグメント利益は94,495千円(前年同期比601.6%増)となりました。

*1 人工透析用中空糸膜

人工透析に用いるストロー状の膜。膜表面に微細な孔が空いており、その孔を通じて血液から老廃物の除去を行う。膜素材にはポリサルフォンなど様々な合成高分子材料が用いられる。

*2 スーパーエンジニアリングプラスチック

一般的に150℃以上の長期耐熱特性を有するプラスチックを指す。ポリサルフォン (PSUもしくはPSF) 樹脂のほかには、ポリエーテルサルフォン (PES) 樹脂、ポリフェニレンサルファイド (PPS) 樹脂、液晶ポリマー (LCP) などが代表的。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は972,337千円となり、前連結会計年度末(以下「前年度末」という)と比べ138,339千円減少しております。これは主として現金及び預金が129,385千円減少、商品及び製品が12,122千円減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は1,918,701千円となり、前年度末と比べ25,699千円減少しております。これは、主として有形固定資産が23,838千円減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における繰延資産は53,565千円となり、前年度末と比べ4,511千円減少しております。これは、開業費の償却によるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は692,427千円となり、前年度末と比べ151,459千円減少しております。これは主として支払手形及び買掛金が131,300千円減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は1,727,534千円となり、前年度末と比べ62,961千円増加しております。これは、主として長期借入金が増加したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は524,641千円となり、80,053千円減少しております。これは、主として利益剰余金が81,103千円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年6月期の通期の連結業績予想につきましては、2019年8月14日の決算短信で公表しました通り通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	401,970	272,585
受取手形及び売掛金	347,765	348,633
商品及び製品	195,807	183,685
仕掛品	10,733	3,999
原材料及び貯蔵品	29,520	35,605
前払費用	18,737	17,997
未収還付法人税等	81,772	81,772
その他	26,679	30,461
貸倒引当金	△2,309	△2,404
流動資産合計	1,110,676	972,337
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	913,030	924,880
機械装置及び運搬具	1,038,324	1,061,914
工具、器具及び備品	80,556	80,777
土地	102,100	102,100
リース資産	150,052	150,052
建設仮勘定	38,073	25,408
減価償却累計額	△677,719	△724,555
有形固定資産合計	1,644,417	1,620,578
無形固定資産	14,272	14,075
投資その他の資産		
投資有価証券	20,000	20,000
繰延税金資産	162,873	162,873
敷金及び保証金	101,386	100,922
その他	13,005	11,766
貸倒引当金	△11,554	△11,514
投資その他の資産合計	285,710	284,046
固定資産合計	1,944,400	1,918,701
繰延資産		
開業費	58,077	53,565
繰延資産合計	58,077	53,565
資産合計	3,113,154	2,944,603

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	175,569	44,268
1年内返済予定の長期借入金	319,492	352,352
リース債務	34,425	26,081
未払金	180,872	185,895
未払費用	44,565	44,606
未払法人税等	6,368	2,225
未払消費税等	14,256	17,788
賞与引当金	—	13,950
その他	68,335	5,258
流動負債合計	843,886	692,427
固定負債		
長期借入金	1,359,070	1,426,992
リース債務	67,061	66,423
繰延税金負債	26,616	26,025
資産除去債務	153,016	153,241
その他	58,807	54,851
固定負債合計	1,664,572	1,727,534
負債合計	2,508,459	2,419,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	439,219	439,219
資本剰余金	487,258	487,258
利益剰余金	△329,775	△410,879
自己株式	△96	△142
株主資本合計	596,605	515,455
新株予約権	8,089	9,185
純資産合計	604,695	524,641
負債純資産合計	3,113,154	2,944,603

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
売上高	638,423	675,656
売上原価	514,235	560,768
売上総利益	124,188	114,888
販売費及び一般管理費	196,698	185,580
営業損失(△)	△72,509	△70,692
営業外収益		
受取利息	104	411
その他	218	170
営業外収益合計	322	581
営業外費用		
支払利息	4,041	6,014
開業費償却	2,958	4,511
その他	1,687	25
営業外費用合計	8,687	10,551
経常損失(△)	△80,874	△80,662
特別利益		
新株予約権戻入益	—	120
特別利益合計	—	120
税金等調整前四半期純損失(△)	△80,874	△80,542
法人税、住民税及び事業税	488	1,152
法人税等調整額	△15,746	△590
法人税等合計	△15,257	561
四半期純損失(△)	△65,616	△81,103
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△65,616	△81,103

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失(△)	△65,616	△81,103
四半期包括利益	△65,616	△81,103
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△65,616	△81,103
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	再生樹脂製造販売事業	産業廃棄物処理事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	194,931	443,492	638,423	638,423
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,496	625	5,121	5,121
計	199,427	444,117	643,545	643,545
セグメント利益又は損失 (△)	△15,465	13,468	△1,996	△1,996

2. 報告セグメント利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△1,996
セグメント間取引消去	△265
未実現利益の調整額	△3,055
全社費用(注)	△67,191
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△72,509

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2019年7月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	再生樹脂製造販売事業	産業廃棄物処理事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	222,344	453,311	675,656	675,656
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,550	1,027	4,578	4,578
計	225,895	454,339	680,234	680,234
セグメント利益又は損失 (△)	△97,373	94,495	△2,877	△2,877

2. 報告セグメント利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△2,877
セグメント間取引消去	47
未実現利益の調整額	835
全社費用(注)	△68,698
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△70,692

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び技術試験費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(その他)

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。